

第8回 札幌開発建設部ダム事業費等監理委員会を開催

札幌開発建設部で幾春別川総合開発事業のダム事業について、一層の事業費・工程監理の充実を図るため、「コスト縮減策やその実施状況」、「事業の進め方等」について学識経験者等のご意見を頂く場として「札幌開発建設部ダム事業費等監理委員会」を開催いたしました。

記

- 開催日時 平成27年8月3日（月） 15：30～17：00
- 開催場所 札幌開発建設部内会議室
- 議 題

1. 幾春別川総合開発事業

- (1) 平成26年度 事業実施状況
- (2) 平成27年度 事業実施計画
- (3) 平成28年度以降 事業実施方針
- (4) コスト縮減検討状況



「札幌開発建設部ダム事業費等監理委員会」委員名簿

◎委員長（敬称略、五十音順）

名前	役職等
◎泉 典洋 いずみ のりひろ	北海道大学大学院工学研究科教授
浜本 聡 はまもと さとし	国立研究開発法人土木研究所寒地土木研究所 寒地水圏研究グループ グループ長
向田 直範 むかいだ なおのり	北海学園大学 名誉教授
山下 弘市 やました ひろいち	元北海道土木技術会コンクリート研究委員会委員

◆議事要旨◆

○各委員からの主な意見は以下のとおり。

(意見) コスト縮減の観点から検討されている、既設水位観測施設の活用については、水位が高い状況においても、保守点検が可能な構造が望ましい。

(回答) 保守点検性を十分考慮して既設水位観測施設の活用について検討する。

(質問) コスト縮減の観点から断熱材として堤体コンクリートの冬期養生に用いることが検討されているチップ材について、品質の管理はどのように考えているか。

(回答) チップ材の品質管理については今後の課題であり、引続き検討してまいりたい。

(質問) 新旧堤体接合部の温度応力対策は検討されているが、ダム下流面の冬期養生についてはどのように実施する計画か。

(回答) ダム下流面については、近年の他ダムと同様に養生マットの敷設を計画している。

(質問) 三笠ぼんべつダムのCSG母材の原石採取についてご説明いただきたい。

(回答) 三笠ぼんべつダムでは台形CSGというダム型式を採用することにより、新桂沢ダムのコンクリート骨材として使用できず廃棄される低品質な岩石を、CSGの母材として有効に活用する計画である。

(質問) 両ダムの原石採取はどのように計画されているか。

(回答) 新桂沢ダムの骨材を採取する際に、三笠ぼんべつダムのCSG母材として使用する低品質な地層も同時に掘削されるため、同時に原石が採取される計画となっている。

(質問) CSG母材の発生と三笠ぼんべつダムの打設スケジュールは必ずしも一致しないと想定されるが、その場合の母材の保管についてはどのように計画されているか。

(回答) 母材の保管については、降雨・雪の影響で乾湿が繰り返されることによるスレーキングの発生が課題であり、母材をストックする際の堆積方法の工夫や、ビニールシートによる被覆等の対策について、必要性を検討しているところである。

(以上)